

輸血の開始から数時間後に 内出血を認めた事例

【今回の事例】

ICUで医師から意識障害のある患者にRBC輸血の指示がありました。看護師が輸血用に末梢静脈（V）ラインを2本確保しました。逆血を確認できなかったものの、生食フラッシュで抵抗がなかったため、うち1本のラインから輸血を開始しました。輸血開始後の5分間および15分後には気になる点はありませんでしたが、数時間してから刺入部周囲に内出血を確認しました。

輸血の血管外漏洩でインシデント報告が上がりました。

*内出血を確認した後、直ちに皮膚科へ相談。経過観察により症状は軽快しました。

緊急輸血

意識障害のある患者さんに、VラインからRBC献血をします

ラインの確保

あれっ！逆血が確認できない！
生食フラッシュは大丈夫！
輸血は始めても良い??

内出血

輸血開始後、数時間…



《輸血を始めてしばらくは大丈夫だったけど…》

【事例から考えるポイント】

- ・ 輸血開始15分以降も、穿刺部も含めて適宜患者観察を行いましょう！
（意識障害などの背景や血管が脆いなどリスクのある場合は要注意）
- ・ 輸血終了後の穿刺部の圧迫は十分に行いましょう！
（抗血小板薬・抗凝固薬服用患者は長めに圧迫）
- ・ 穿刺部が観察できるよう透明なドレッシング材を使用しましょう！

輸血療法部会では、輸血関連インシデント事例を解析、発信し、安全な輸血療法の発展に貢献します

長野県献血推進協議会 輸血療法部会

事務局 薬事管理課

026・235・7159

長野県赤十字血液センター 026・214・8194

Mail:yuketsu-ryouhou@kts.bbc.jrc.or.jp

当部会のホームページ：<https://www.pref.nagano.lg.jp/yakuji/kenko/iryoyiyakuhin/yuketsuryouhou.html>